

# Rapport

2023  
Number

120

多摩大学 | 広報誌 |

## Vol. 120 Contents

### 〈経営情報学部〉

2022年度第2回SRC	02
就職セミナー	03
観光に関する発表会 2022	03
第14回 多摩大学AL発表祭	04-05
第11回「実学の帝塚山大学」実践学生発表祭	05

### 〈グローバルスタディーズ学部〉

第2回 湘南中国語スピーチコンテスト	06
藤沢市の観光プロモーション動画制作	06
多摩大学アドバイザリーボード	07
寺島実郎監修リレー講座 現代世界解析講座 XVI 2023年度春学期	07
第1回「Odakyu Innovation Roots」	08
卒業生から学ぶ多摩大流の就活とキャリア	08

## 2022年度第2回SRC (Student Research Conference)

2023年1月26日、「2022年度第2回SRC (Student Research Conference)」が開催されました。SRCは経営情報学部の学生がホームゼミにおける研究成果を発表する場で、年2回(夏・冬)行っています。

発表と質疑応答を含め10分(Short)、15分(Long)の持ち時間が与えられ、今回は6教室において卒業研究も含め108件の発表がありました。研究のテーマや関心は多岐にわたり、教員や参加学生からは様々な質問や意見、アドバイスがあり有意義な場となりました。

〈石川晴子ゼミ〉「日本におけるクマの行動変化とクマとの共存に関する地域観光モデルの提案」 〈出原至道ゼミ〉「Interverse Virtual Reality Challenge (IVRC) 2022 に挑戦して」 〈今泉忠ゼミ〉「ミシュランの星を上げる方法」 「横浜 DeNA ベイスターズの観客動員数について」 他 〈梅澤佳子ゼミ〉「(卒業研究) 組織におけるコミュニケーションの重要性について」 「(卒業研究) 視覚障がい者を対象とした鉄道の駅・ホームにおける安全対策の一考察」 「世代間交流八王子駅前サロンプロジェクト 2022 成果報告 (大学コンソーシアム八王子学生企画事業補助金対象事業)」 他 〈大森拓哉ゼミ〉「(卒論) 映画館とサブスクリプション」 「日本でフィットネスを広めるには」 「ディズニーとUSJの魅力の違いについて」 「異性の何に惹かれるか」 他 〈久保田貴文ゼミ〉「時系列クラスタリングの結果に基づく販売提案～韓国コスメのECデータ～」 「紙飛行機を飛ばすために必要なことについて」 他 〈小西英行ゼミ〉「5Gとこれからの産業」 「CD業界の裏側」 「航空業界の現状」 「ソーシャルゲーム業界を率いるサイゲームスと対抗企業」 他 〈小林昭菜ゼミ〉「シンガポールの自動車事情」 「タイ国民が国王に求める姿」 「近代トルコのグローバル化」 「現代キューバの国民生活～国民の不満を中心に解決策を考える～」 他 〈齋藤S裕美ゼミ〉「アニメ・漫画の無断転載について」 「Twitterの利用目的と個人情報に対する意識の関係性」 「違法アップロードについて」 他 〈杉田文章ゼミ〉「音楽のポテンシャル」 「障がい者スポーツへの提案」 〈高橋恭寛ゼミ〉「稽古談」 「石田梅岩」 「海保青陵と論民談」 〈中庭光彦ゼミ〉「観光に頼らない移住者増加政策の現状」 「コンパクトシティの様々なパターン」 「観光起業家から考える観光まちづくり」 他 〈水盛涼一ゼミ〉「日本と中国の海洋進出」 「中国と日本 貿易の比較」 「化粧品市場から見る韓国」 「カナダで日本食ビジネス」 「コーヒー一杯で世界と繋がる方法～グローバル・マーケティング戦略から見て～」 他 〈良峯徳和ゼミ〉「睡眠時間が生理的指標に与える影響について」 「アロマの香りが与える生理的変化と認知パフォーマンスへの影響」 他 〈AL問題解決のためのデータ分析II〉 「2021年下半期の日本国内における購入データから見た菓子類商品の分析」 他



○発表の一覧は右記 URL および QR コードから閲覧することができます。

URL : <https://src.tama.ac.jp/>





## 「就職セミナー・後援会定期総会」開催

2022年12月4日、多摩キャンパスにて、経営情報学部 就職セミナー「2023年卒の現状から見た2024年卒の就職・採用戦線」を開催しました。就職セミナー開始前には、保証人の皆さまの希望者を対象に図書館や学生食堂、教室など学内を案内するキャンパスツアーを開催しました。今回のセミナーは2部構成で、はじめに後援会長の椎原恭平氏と杉田文章副学長の挨拶があり、終了後には、各教室に移動し保証人の方と担当教員との個別相談を行いました。

### 第1部 「2023年卒の現状から見た2024年卒の就職・採用戦線」

株式会社文化放送キャリアパートナーズ 就職情報研究所 所長 平野 恵子 氏

平野氏は、「大学生から社会人への接続」をテーマに大学低学年から新入社員までの若年層キャリアが専門。人事系専門誌や雑誌などにコラムやレポートを執筆。現在、読売新聞「就活ON!」にて相談室コラムを担当中。2006年より複数の大学でキャリア教育科目（正課）を担当。当日の講演では「新卒採用の現状、新卒採用トピックス、保護者のキャリア・就職支援」をテーマに、就活ルールの変遷や新卒採用スケジュール、2024年卒の市場予測、レッドオーシャンで就活してしまう学生、保証人から就活生への支援の仕方など、現況の解説と就職活動へのアドバイスが語られました。

### 第2部 後援会保証人によるパネルディスカッション

「～親時代から新時代へ～よりよい就活をするためにできることは何か」

司会：浜田正幸就職副委員長、パネラー：会長 椎原恭平氏、副会長 井上太郎氏、大水かおり氏

浜田就職副委員長がコーディネーターを務め、後援会長の椎原氏、副会長の井上氏と大水氏により就活をテーマにディスカッションが行われました。冒頭で各氏から自身の経歴、就職観やキャリア観がパワーポイントを使って丁寧に説明されました。浜田就職副委員長からは「今自分だったらどういった就活をするか」「働きがいを感じたときに感じたか」「ご子息との向き合い方や気をつけていることは何か」「自分のことをどのようにご子息に話しているか」「学生の就活でゼミの教員に望むことは何か」などの問いかけがあり、熱気にあふれたディスカッションが展開されました。



会場の様子



平野恵子氏による講演



パネルディスカッション



個別相談の様子

## 京王観光株式会社と多摩大学の「観光に関する発表会 2022」を開催

2023年3月2日、パルテノン多摩にて京王観光株式会社（本社：東京都多摩市）と多摩大学の産学連携事業「観光に関する発表会 2022」を開催しました。

2020年度から始まった同発表会は、今年度で3回目を迎え、本学の観光まちづくりに関する研究成果を同社と共有することで社会の課題解決の一助とすることを目的とするものです。当日は、経営情報学部 長島剛ゼミ3名が企画・運営担当として参加し、司会進行を務めました。同社からは、竹内健 取締役社長他9名の社員の方々にご参加いただき、本学からは、経営情報学部 彩藤ひろみゼミ生（1名）、中村その子ゼミ生（4名）、松本祐一ゼミ生（4名）、樋笠亮士ゼミ生（3名）が発表を行い、各ゼミの教員（5名）と職員（2名）の総勢32名が参加しました。

各ゼミから「観光業界が新たな観光需要を創出するためにはどういった取り組みをするべきか」をテーマに下表の通り発表があり、同社竹内取締役社長をはじめ役員の方々より大学の研究成果の社会実装への期待や今後の課題解決のヒントとなるご意見をいただきました。

最後に竹内社長より「私はこの観光に関する発表会に初回から参加しております。初回は、学生視点での斬新さやユニークさに目を引くプレゼン内容で新たな気づきもったことを鮮明に覚えております。しかし、今回の発表会は現実的な観光課題設定になっており、その課題が社会的意義のある企画案が多くありました。また、既に実証実験もされていて根拠が高い事案については今後のゼミ活動に注視していく所存です。今後も学生の皆さんが観光業界に興味関心をもっていただけると幸いです」とのメッセージをいただきました。



ワークショップの様子



企画・運営担当の長島ゼミ生



発表の様子

① 彩藤ひろみゼミ「バーチャル高尾山の観光展開」	バーチャル高尾山のコンテンツを活用し、臨場感が得られるメタバースの仮想空間と現実世界の融合を観光客に体験してもらう新しい観光の提案
② 中村その子ゼミ「VR 農業体験」	バーチャル農業体験から若者の農業への興味関心の向上、高齢者の生きがいや再就業のきっかけ作りを行い、農家の人手不足解消や都市農業の活性化を図る提案
③ 松本祐一ゼミ「リバイタライズツアー」	地元民との交流や自治体や地域事業者を巻き込んだ地方創生人材育成を目的とした地域おこし活動を観光の一環とする新しい観光需要の提案
④ 樋笠亮士ゼミ「自動運転を用いた観光・周遊性の向上に関する考察」	実証実験によって見出された自動運転シャトルバスの魅力や特性を活かした、国内外へ向けた観光需要目的での実用に対する提案

## 第14回多摩大学アクティブ・ラーニング発表祭

多摩大学では開学以来、大学内の机上の学修にとどまらず、学生が地域をはじめとする学外のフィールドに出て自らの手と足を動かして活動し、行政・企業・NPO・地域団体・地域住民などさまざまな関係主体と連携しながら、課題の発見と解決を目指すゼミ活動を行ってきました。アクティブ・ラーニング（AL）とは一般的に「学修者の能動的な学修への参加を取り入れた教授・学習法」と定義されています。開学以来実践してきたALをさらに活性化すべく、2016年に「アクティブ・ラーニングセンター（ALC）」を創設しました。ALCでは、ALの研究・開発とプログラムの推進、FD（ファカルティ・ディベロップメント：教員の教育力の開発）、図書・IT・学修サービス、教学マネジメントの推進を行っています。

今年度においても多種多様なプロジェクト・研究などのアクティブ・ラーニングプログラムを展開してきました。その活動の成果を共有する機会として、2022年12月10日に『第14回多摩大学アクティブ・ラーニング発表祭』を開催しました。001教室と101教室を会場に午前と午後の2部制、持ち時間は質疑応答も含め1チーム20分、高大接続の取り組みとして多摩大学目黒中学校・高等学校、多摩大学附属聖ヶ丘中学高等学校による成果発表、招待発表として帝塚山大学（奈良県奈良市）、東京経済大学にご参加いただき、20チームが熱意のこもった発表を行いました。



【URL】 <https://www.tama.ac.jp/al2022/index.html>

タイトル	発表者	
自動運転の現状と課題	樋笠堯士ゼミ 連携先：BOLDLY(株)	
多世代交流八王子駅前サロンプロジェクト2022の実践報告 (大学コンソーシアム八王子令和4年度「学生企画事業補助金」対象事業)	梅澤佳子ゼミ 連携先：八王子市高齢者あんしん相談センター、八王子市民生委員・児童委員協議会第4地区民生委員・協力員、八王子市高齢者いきいき課	
工作機械商社との産学連携！中小企業の動画作成プロジェクト	長島剛ゼミ 協同企業：(株)テクトレージ	
海外投資から見る日本の立場	水盛涼一ゼミ	
新・藤沢	グローバルスタディーズ学部 安田震一ゼミ	
大学生の考える熱い！業界	グローバルスタディーズ学部 渡邊泰典ゼミ	
華人華僑とモンゴル帝国史	インターゼミ（アジアダイナミズム班）	
「Z世代」から見たZ世代研究	インターゼミ（サービス・エンターテインメント班）	
多摩圏の防災対策について ～現状と今後の展望～	インターゼミ（多摩学班）	
教育におけるDX	インターゼミ（DX班）	
「多摩地域優良企業取材レポート2022」から学んだこと	AL「多摩ブルー・グリーン倶楽部」	
聖っ子プロジェクトからの発表	多摩大学附属聖ヶ丘高校 聖っ子プロジェクト	
Reat～ロスを利益に～	多摩大学目黒高校 起業体験SG①	
Fit You	多摩大学目黒高校 起業体験SG②	
新時代	多摩大学目黒高校 投資戦略SG	
2022年度プログラミングSGを通して学んだこと	多摩大学目黒高校 プログラミングSG	
タイ・台湾・シンガポールとの異文化交流会を経験して思うこと	多摩大学目黒高校 異文化交流SG	
招待発表	子どもたちの心の健康をサポートする ～心理教育アプローチの活用～	帝塚山大学 心理学部（中地ゼミ・山口ゼミ）・奈良の未来事業プロジェクト
	ひだがしの市場調査アンケートとインタビューをもとにした提言	帝塚山大学 経済経営学部 特殊講義（地域アクティブラーニング）
	東経大・小木ゼミによる企業とのコラボ活動 ～国分寺物語、TFT、こんなお菓子あったらいいなPJ、こんなコスメあったらいいなPJ、知財活用スチューデントアワード2022～	東京経済大学 小木ゼミ





## 第11回「実学の帝塚山大学」実践学生発表祭

### ～アクティブ・ラーニングの実践事例～

2023年3月3日、帝塚山大学東生駒キャンパス（学長：蓮花一己 所在地：奈良県奈良市）にて、「第11回『実学の帝塚山大学』実践学生発表祭～アクティブ・ラーニングの実践事例～」が開催されました。本学と帝塚山大学は「学術交流に関する包括協定」を締結しており、その一環として毎年実施されている本発表祭に、本学からはインターゼミ（社会工学研究会）「サービス・エンターテインメント班」（学生2名）と「松本祐一ホームゼミ イベント事業部」（学生2名）が参加しました。本学の他には大阪電気通信大学が参加し、3校による多様な教育研究分野の発表が行われました。

松本祐一ホームゼミは「奥多摩町における中小企業向け社員旅行の事業開発」、サービス・エンターテインメント班は「『Z世代』から見たZ世代研究」をテーマに、ゼミで一年間積み上げた研究成果を報告しました。

各チームの発表後には、学生たちから次々と質問の手が上がり、活発な質疑応答が展開されました。

帝塚山大学は昨年12月10日に本学で開催した「多摩大学アクティブ・ラーニング発表祭」にも参加しており、研究発表を行っています。多摩大学と帝塚山大学は、このような研究発表を軸に学生と指導教員が毎年交流を深めており、互いに切磋琢磨する貴重な機会となっています。



サービス・エンターテインメント班による発表



松本祐一ゼミによる発表



松本教授による講評

## 「第2回湘南中国語スピーチコンテスト」開催

2023年2月11日、多摩大学グローバルスタディーズ学部にて、「第2回湘南中国語スピーチコンテスト」（主催：湘南中国語スピーチコンテスト実行委員会・共催：湘南日本中国友好協会、多摩大学）が開催されました。当日は藤沢市長、藤沢商工会議所会頭、藤沢市議会議長、湘南日中友好協会会長ら来賓をはじめ、出場者の家族や友人、関係者など約50人が観覧しました。

高校の部9名（5校）、大学の部4名（2校）が出場し、今回の課題テーマ「私と中国語」について、1人3分間の持ち時間でスピーチを競い合いました。審査の結果、高校の部では藤嶺藤沢高等学校1年松ヶ浦貴さん、大学の部は昭和女子大学2年生の角田碧衣さんがそれぞれ優勝者として選ばれました。本学部からは3名が参加し、土肥芽生さん（4年生）が二等賞、佐野磨李さん（3年生）が三等賞、佐々木悠舞さん（3年生）が湘南日中賞を獲得しました。

この大会は、中国・雲南省昆明市と友好都市である藤沢市を中心とした湘南地域で中国語を学ぶ学生や生徒を対象とし、優勝者は昆明・上海への研修旅行に招待されます。藤沢市や藤沢商工会議所、駐日中国大使館、国際交流基金が後援し、藤沢市都市親善委員会、姉妹都市・友好都市との交流を深める市民の会、聶耳記念碑保存会から協賛をいただき、若者世代の派遣により日中両国の青少年の交流を図ることを目的としています。

2020年2月に第1回となる湘南中国語スピーチコンテストを開催しましたが、その後は新型コロナウイルス感染拡大のため延期が相次ぎ、今回が3年ぶりの開催となりました。

藤沢市にグローバルスタディーズ学部のキャンパスを置く多摩大学は、この中国語スピーチコンテストをきっかけに若い世代の日本と中国の友情がさらに深まり、両国の友好の輪がますます発展していくことを期待しています。



出場者および主催者の皆さん

## グローバルスタディーズ学部生が藤沢市の観光プロモーション動画を制作

グローバルスタディーズ学部（SGS）が立地する藤沢市は、2022年6月、市内の大学と連携して、市の魅力をPRするプロモーション動画を制作することとなりました。SGSでは、2年生・藤原真耶さんと米沢真菜さんが参加し、観光をテーマとして動画制作を行いました。

7月14日、学生2名、教職員3名に市の観光課、広報シティプロモーション課の担当者3名を交えた打合せがあり、江の島以外も含めた動画とする方針が打ち出されました。

夏休み中の江の島撮影から始まり、10月16日には市内の北部にある里山公園や農畜産物の地産地消スポット等を訪ね、動画を撮影し、途中で芋掘体験も行いました。

その後、江の島における秋～冬季のイルミネーション等を撮影し、動画の編集を行ってきました。このほど完成したビデオ「今すぐ行きたくなる藤沢」（2分24秒）を市に提出しました。

この動画は3月2日より、日本大学「子どもとすくすく育つまち。」、湘南工科大学「SPORTS IN LIFE」と合わせて、市役所等のデジタルサイネージで流されるとともに、YouTube等でも視聴することができます。動画はこちらからご覧ください。→





## 多摩大学アドバイザーボード 開催

2023年2月27日、多摩大学九段サテライトにて、アドバイザーボードを開催しました。

アドバイザーボードは、本学の全学部・研究科の教育課程の編成及び産官学民連携を通じた教育効果の方針について、産業界より複数の識者をお招きし、助言をいただき、本学の施策に反映することを目的として開催するものです。

はじめに寺島実郎学長より、本学全体の方針についてレクチャーをしたあと、本学の課題や地域連携、就業支援等についてボードメンバーと活発な意見交換を行いました。

ボードメンバーからは産学連携強化の重要性や人材育成に関して産業界の取り組み事例を交えながら助言をいただきました。

本学は学外の方々の意見等を今後の取り組みに反映させ、多摩大学ならではの強みを生かし、魅力ある大学として取り組みを進めます。



メンバーの意見交換



本学の方針を説明する寺島学長

### アドバイザーボードメンバー（順不同）

多摩信用金庫 専務理事 金井 雅彦 様

城南信用金庫 専務理事 安井 稔 様

株式会社ファンケル 代表取締役 社長執行役員 CEO 島田 和幸 様

BIPROGY 株式会社 代表取締役社長 平岡 昭良 様

三井情報株式会社 代表取締役社長 浅野 謙吾 様

ANA ホールディングス株式会社 上席顧問・弁護士 菅原 貴与志 様

株式会社文化放送キャリアパートナーズ 専務取締役 HR 戦略事業本部副本部長 岡田 航三 様

株式会社学研メソッド 代表取締役会長 千代延 勝利 様

### 多摩大学

学長 寺島 実郎 / 学長室長 小林 英夫 (司会) / 副学長兼経営情報学部長 杉田 文章

副学長 安田 震一 / グローバルスタディーズ学部長 新美 潤

大学院研究科長 河野 龍太 / 学長室副室長 趙 佑鎮 / 事務局長 川手 雅人

## 多摩大学 寺島実郎監修リレー講座 現代世界解析講座XVI 2023年度春学期

### 深く広く世界の構造変化を理解する

世界をより深く広く理解する努力が、いかに生きるべきかに気付く基盤であり、直面する課題の解決力を高める鍵である。

多摩大学のリレー講座も16日目を迎え、春・秋学期毎回地域住民約300名、学生約200名が受講し、延べ参加者21万人超の参加者を得ています。

【会場】多摩キャンパス001教室 【時間】14:50～16:10 (受付開始14:00) 【受講料】一般13,000円 (全12回分)

特別割引受講料11,000円 \*多摩大学後援会会員・多摩市および稲城市の在住・在勤者、他大学学生・多摩大学卒業生・大学院修了生

【ライブビューイング受講料】6,000円 (湘南キャンパス) 【録画放映受講料】6,000円 (都心サテライトキャンパス)

【インターネットオンデマンド (録画) 受講料】〈講義資料ネット配信形式〉10,000円 〈寺島学長資料集郵送形式〉12,000円

【主催】多摩大学 【後援】多摩市、多摩信用金庫 【監修】寺島実郎 (多摩大学学長) 【HP】<https://www.tama.ac.jp/relay/>



	開講日	講師 (敬称略)	肩書・役職等	テーマ
1	4月20日 (木)	寺島 実郎	多摩大学 学長 (一財) 日本総合研究所 会長	「2023年の世界の構造変化とその意味」
2	4月27日 (木)	藤原 帰一	千葉大学国際高等研究基幹 特任教授 学長特別補佐	「ウクライナ侵攻後の世界」
3	5月11日 (木)	小泉 悠	東京大学先端科学技術研究センター 専任講師	「ロシア・ウクライナ戦争と日本の安全保障」
4	5月18日 (木)	鈴木 恒夫 阿部 裕行 寺島 実郎	藤沢市長 多摩市長 多摩大学 学長・(一財) 日本総合研究所 会長	【鼎談企画】 「多摩・藤沢の過去、現在、未来への視界を拓く」
5	5月25日 (木)	巴特爾	多摩大学経営情報学部 教授 多摩大学国際交流センター長	「中国の食料需給と『食』の安全保障戦略」
6	6月1日 (木)	竹中 千春	立教大学法学部 元教授 公益財団法人日印協会 理事	「大国化するインドと民主主義の変質—インドはどこに向かうか」
7	6月8日 (木)	樋笠 堯士	多摩大学経営情報学部 専任講師 名古屋大学未来社会創造機構 客員准教授	「自動運転をめぐる法的・倫理的課題とルール形成」
8	6月15日 (木)	青木 理	ジャーナリスト	「政治と警察—近年の政権のその距離について」
9	6月22日 (木)	寺島 実郎	多摩大学 学長 (一財) 日本総合研究所 会長	「全体知から人類史を再考する」
10	6月29日 (木)	軽部 謙介	ジャーナリスト 帝京大学経済学部 教授	「アベノミクスとは何だったのか—異形の経済政策が残したもの—」
11	7月6日 (木)	元村 有希子	毎日新聞論説副委員長	「これからの日本・世界・地球」
12	7月13日 (木)	寺島 実郎	多摩大学 学長 (一財) 日本総合研究所 会長	「2023年夏、視界に入れるべきこと」

【お問い合わせ】多摩大学寺島実郎監修リレー講座事務局 TEL: 042-337-7300 / FAX: 042-337-7103 Mail: relay@gr.tama.ac.jp

### 3 大学リレー式オンラインシンポジウム

## 「Odakyu Innovation Roots」第1回を開催

2023年2月7日、本学湘南キャンパスにて、小田急沿線にキャンパスを展開する多摩大学、相模女子大学、東海大学と小田急電鉄株式会社主催の3大学リレー式オンラインシンポジウム「Odakyu Innovation Roots」の第1回が開催されました。当日は会場45名、オンライン162名の方々にご参加いただきました。

グローバルスタディーズ学部（3年生）の司会進行のもと、農業法人株式会社いぶき、株式会社ANA総合研究所、ONSENガストロノミーふじさわパートナーズ事務局、UDS株式会社、本学グローバルスタディーズ学部 韓準祐准教授の5名の方々にご登壇いただきました。

第1回のテーマは、「藤沢北部から考える新たな価値創造とその可能性」で、登壇者から藤沢北部を中心に農業、観光というテーマを中心に広がっている大学との連携活動について発表があり、そこから生まれる新たな地域価値および更なる進展の可能性についてクロストークを展開しました。

クロストークでは、学生の社会問題への関心の高さ、地元の食材を活かした地産地消によるSDGsの取り組み、農業体験を取り入れた観光産業の課題、地元を知るための「体験」や学生たちの将来の居住地として選ばれる魅力的なまちづくりの必要性などについて意見交換が行われました。同シンポジウムを通じて、学生が地元の方との交流を図り、地域の理解を深めながら、地域活動に参加することが藤沢市の活性化につながることを確認することができました。



グローバルスタディーズ学部生による司会進行



クロストークの様子



集合写真

### 企業で活躍する先輩を講師に

## 「卒業生から学ぶ多摩大流の就活とキャリア」開催

2023年1月28日、多摩キャンパスにて、「卒業生から学ぶ多摩大流の就活とキャリア」をテーマにパネルディスカッションとワークショップを行い、経営情報学部の在籍生22名が参加しました。同イベントは、現在、社会で活躍されている卒業生から在学中に積極的に取り組んだゼミやプロジェクト活動などの意義を在籍生へ伝え、交流を図り、キャリアプランに関する学びの創出を目指すものです。

卒業生として、同イベントの主催者の一人でもある北辻巧多郎さん（株式会社LIFULL、平23卒）に加え、齋藤直路さん（株式会社スターパートナーズ、平19卒）、鈴木垂希子さん（株式会社やる気スイッチグループ、平20卒）、遅澤明子さん（株式会社セブン・イレブン・ジャパン、平23卒）、豊田高行さん（株式会社リンクアンドモチベーション、平23卒）の4名をゲスト講師としてお招きしました。

卒業生からは大学時代や現在のキャリアについてお話しいただき、パネルディスカッションでは、大学時代のゼミ活動が積極的な気持ちを鼓舞するような契機となったことや、社会人と触れ合う機会が多かったことで、ビジネスマナーを学べたり、就職活動に役立ったりしたことなどをお話しいただきました。ゼミの仲間と共に考え、時にはぶつかり、コミュニケーションを深めたことが良かった、などの印象的な発言もありました。

ワークショップでは、「多摩大流といえば」をテーマに5つのチームが意見を出し合い、「多摩大生には伸びしろがある」「社会とつながる体験を仲間と密にできる」「社会の現場にできることができる」「繋がりを大切に」「少人数で学べる」等、多摩大の強みを共有でき、仲間意識を高めました。参加した学生には今後のキャリアを考えるにあたり自身を見つめ直すきっかけとなりました。

